

県立多治見病院 緩和ケアチーム通信

2025年7月号 vol. 169

緩和ケアチームメールアドレス： kanwa@tajimi-hospital.jp

自施設での緩和ケアに関する悩みごと、県病院緩和ケアチームに対する意見や要望、施設ごとでのオンライン事例検討や勉強会などの開催要望など、なんでもお寄せ下さい。



～ チームメンバーより一言 ～

臨床心理士 中西 詩乃

心理師の中西です。緩和ケアチームで患者さんのお話を聴き、気持ちの整理をお手伝いできるような努めています。緩和ケア領域の心理支援は本当に奥深く、名古屋パリアティブケア研究会に参加し勉強を続けていますが、まだまだ研鑽が足りないなあと感じることばかりです。そんな思いを抱え、昨年冬に福岡であった全国パリアティブケア合同事例検討会に出かけてきました。全国の緩和ケア領域で働く心理師が集い、時間をかけて丁寧に事例を読み解く検討会です。60名ほどの心理師が参加しており、様々な背景（所属先や雇用形態、業務分掌、学派など）の心理師と、介入のあり方やできること/難しいことなどの情報交換もできました。目の前の患者さんが自分の人生のなかでどう“病気”と向き合っていくのか、その毎日に寄り添えるよう仲間と一緒に励みたいと思っています。

今回私は初・福岡でした。時間の都合で太宰府にも行けず、博多ラーメンも長蛇の列に怖気づいて食べられませんでした。ごぼ天うどんにはすっかりハマりました。澄んだ出汁に香り豊かなごぼうが溜まりません。合同事例検討会は今年度名古屋が当番なので、私も事務局おもてなし係を務めます。名古屋めしが食べたい！という参加者のリクエストにお応えすべく準備中ですが、我が五平餅やからすみ、栗菓子なんかも、アピールしたいなと思っています。

リハビリテーション・PT 富田 和裕

私はリハビリテーションに携わる立場として各病室に足を運ぶ機会が多いのですが、そこで最近ふと感じることがあります。それは、病室のテレビで大リーグの試合を見て過ごされている入院患者様がなくなったことです。正確には、野球観戦というより大谷選手を見ているといった方がいいでしょう。それも、野球を殆ど知らない、ご高齢の女性の方までが、「大谷選手のファンなの」といって夢中になっています。

リハビリテーションに於いては、特に当院のような急性期の病院ではベッドで寝たきりの状態から開始することも多く、この“何もせず寝たまま”の状態が様々な悪影響を来すことがあります。認知症や意識レベルの悪化（せん妄など）、身体機能の低下などです。

そこで“大谷選手のプレーを見る効果”について考えてみました。

- ① 目で見ることで視覚的な情報が入り、脳を刺激
- ② 試合のある時間を意識することで、記憶力に作用
- ③ 座って見ようとする行動を起こすきっかけになり筋肉を使う
- ④ 日中、覚醒している時間を作り生活のリズムが整う
- ⑤ 椅子座位やベッド上で身体を起こして見ることで、呼吸に良い作用を来すことがある
- ⑥ 応援することで自身もポジティブな気持ちになれる

特に、自身で動けない方ほど良い効果か思います。

大谷効果は、経済効果ばかり注目されますが、医療従事者の視点でも素晴らしい効果をもたらしていることを思うと、改めて大谷選手の偉大さを感じました。

